

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	とまり木 幌別			
○保護者評価実施期間	令和7年1月20日 ～ 令和7年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	令和7年1月20日 ～ 令和7年2月14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	■大小3室の療育室 大小3室の療育室を運用しており、50㎡の多目的室では、ダンスや軽スポーツ、協調運動訓練などの運動療育の提供を行っています。 ひとり1人の運動療育に係る成果を定量的に記録し、より確かな活動成果につなげるPDCAサイクルの実装	■個別療育教科のカリキュラム整備と実践計画策定 予めカリキュラム体系を整備して、こどもの状況に応じた最適な療育環境を作り上げる。 また、日々の実践から策定済みカリキュラムの改定を定番作業とする	■職員の習熟への取り組み システムに蓄積された日々の活動成果データの活用ノウハウの蓄積。 論理的思考プロセスへの習熟による実効性の高い、個別療育を組み立てる能力強化
2	■データベースシステムで情報を管理、生産性の向上 自発管による支援計画／療育計画の短期課題ををプログラミング学習、運動療育、SST,コグトレ、ICTツール訓練などの教科毎に取組を設けてシステムで運用を管理します。 実績データの活用ノウハウを蓄積します。 また、帳票の自動生成などで生産性を向上させます。	■日々の取組の方針と活動計画作成 1人ひとりの課題に対する取組方針を事前に熟考し、それに基づく具体的活動を考え出す取組 これをシステムに登録して、時系列変化などを振り返りの根拠とするシステム開発と運用習熟に取り組んでいます。	■職員の仕事力強化 報告連絡相談などの仕事の基本となる能力の底上げをOJTとして取り組みます。 また、業務の進行（進捗）管理を担うデスク機能創設で事業所としてのチーム力の教科に取り組みます。

3	■多彩な外部連携 2021年から実施している子ども支援活動で得られた外部協力者（団体）との連携で、様々な社会体験が提供できる。 こども達に社会体験を通して視野の拡大、他者との関係性の重要性認識の機会を提供する	■優先課題を様々な切り口でアプローチする 個別支援計画／療育計画で定めた短期目標の達成に対して、療育計画毎に教科の特徴を基本に教科課題を設けています。 優先課題の達成を事業所の職員が共通の認識で丸となって取り組みます。	■外部連携の強化 相互補完ができる関係を目指し、我々が提供できることの創出に取り組みます。
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	■放課後等ディサービス事業未経験者の育成 - 育成マニュアルなどが整備されていない - とまり木としての行動規範が整備されていない	■新規事業としての準備不足 事業立ち上げの準備は療育教材の整備に注力したため人材育成用マニュアル作成が後手に回ってしまった	■とまり木行動規範の整備 様々な状況への対応を事業所全体会議で議論を重ねこれをA6版小冊子として整備します。
2	■とまり木としての指導要領の充実が必要 概要レベルでは整備しているが、精緻な指導要領が必要と感じている	同上	■とまり木業務マニュアルの整備 - 上記行動規範と合わせてマニュアル化して、常に携帯できるマニュアルを作成する - 行動規範、マニュアルの定期的検証（ふりかえり）を実施して、最適化を図る
3	■利用者向けの視覚的情報提供が不十分 教材の配置、待機などの指示、情報提供が文字主体になっている傾向がある	■新規事業立ち上げで余裕が無かった 必要な情報提供は文字主体で用意したが、これらを見直し視覚的わかりやすさを追求する時間を確保できなかった	■期間を決めて、事業所内情報掲示改善を実施する 4月以降の早い時期に社内対応委員会を立ち上げ、全面的な改善を行います。